

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

A シネマの冒険 闇と音楽1998

Silent Film Renaissance 1998

12月15日(火)ー12月26日(土)

料金(特別企画上映)=一般810円 学生490円 小人350円

ロベール・ドードラン講演会

Lecture by Robert Daudelin

12月5日(土) 午後1時~4時

入場無料

展示室(7階)

ポスターでみる日本映画史 PART II

ーみそのコレクションよりー

Japanese Film History in Posters, Part II

ーFrom the Collection of Kyohei Misonoー

11月3日(火・祝)ー12月4日(金)

12月15日(火)ー12月26日(土)

入場無料

●12月の休館日: 日曜日・月曜日, 12月8日(火)ー12月12日(土)

大ホール

定員=大ホール300名

発券=2階受付

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行ない、定員に達し次第締切となります。
- 開映後の入場はできません。
- 各回入替制です。

展示室

開室=休館日以外の火曜日ー土曜日

(午前10時30分ー午後6時/入場は5時30分まで)

図書室(4階)

開室=休館日, 休映日, 祝日, 臨時休室日以外の火曜日ー金曜日

(午前10時30分ー午後6時/入室は5時30分まで)

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center

The National Museum of Modern Art, Tokyo



1998

12

NFCカレンダー
98年12月号

大ホール 上映作品

シネマの冒険
闇と音楽1998
Silent Film Renaissance 1998

京橋新館が開館した1995年に、前年の企画「サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて」を引き継ぐ形で開催された「シネマの冒険 闇と音楽」は、無声映画の新しい魅力を引き出すものとして好評を博しました。シリーズ化された本企画は、昨年にも続き今年も「シネマの冒険 闇と音楽1998 (Silent Film Renaissance 1998)」と題してここに開催の運びとなります。ベティ・アマンが女の情感をほとぼらしせる「アスファルト」、レフ・クレシヨフ監督の実験的意欲作「ボルシェヴィキの国におけるウエスト氏の異常な冒険」をはじめ、5ヵ国から5本の作品を選んだ今回のプログラムは、田中絹代=大日方伝共演の「伊豆の踊子」とアルフレッド・ヒッチコック監督の「農夫の妻」にピアノ伴奏や弁士の語りを付けるという試みを行なうこと(ピアノ、弁士各一回ずつ)、阮玲玉(ロアン・リンユイ)主演の「女神」をピアノ伴奏と胡弓の伴奏で上映すること(各一回ずつ)など、これまでも増して意欲的な企画になっています。個性的な無声映画の数々を、新しいプレゼンテーションのかたちとともにご堪能ください。

■監=監督 製=製作 原=原作 脚=脚本・脚色
撮=撮影 美=美術 出=出演者

■記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

A-2 12/16水6:30pm 12/22火6:30pm

アスファルト

Asphalt

映画監督ユーエ・マイ(アメリカではジョー・メイ)の名は、ほとんどの場合、若い警察官とヤクザの情婦との間に生まれる道ならぬ恋と犯罪を描いたこの作品によってしか語られることがない。日本公開時に川端康成は「女性の肉体の魅力は、映画で芸術となる。映画とは、女性の肉体の魅力を実現するための芸術だ」と書いたが、今日の観客にとっても、情婦を演じるベティ・アマンの妖艶な美しさは圧倒的であろう。なお、このNFC所蔵版は、欧語インタータイトルが日本語(縦書)に差し替えられたものであることをお断りしておく。

(117分・18fps・35mm・無声・白黒・日本語インタータイトルのみ)

'29ドイツ/ウーファ(脚)ユーエ・マイ(脚)エリッヒ・ポマー(脚)フレド・マヨ(監督の変名)、ハンス・セックリ、R・ヴァンロー(脚)ギュンター・リッター(脚)E・ケッテルフォート(脚)グスタフ・フレリッヒ、ベティ・アマン、A・シュタインリュック、E・ヘラー、H・A・フォン・シュレツトウ、W・フォレスト

●ピアノ伴奏=渡辺雄一[12/16]、柳下美恵[12/22]



A-4 12/18金6:30pm 12/26土4:00pm

恋の花咲く 伊豆の踊子

Izu no Odoriko/The Izu Dancer

可憐な伊豆の踊子と東京から来た学生とに芽生える淡く純粋な恋心——川端康成の同名原作を初めて映画化したこの五所平之助監督のヒット作品は、その後、松竹大船、日活、東宝でそれぞれ時代のアイドルをヒロイン=踊子に選び製作されていく5本に及ぶ人気リメイク作品の原型となった。なお、この作品が「サウンド版」であったとする資料もあるが、御園京平氏の公開当時の記憶によれば、映画は完全な無声版であったという。ただし、封切り前の時点で「ビクター・レコード吹込歌詞は(…)相当流行」(キネマ旬報462号)していたらしく、フィルムの冒頭にはそのレコードのクレジットも現われる。

(124分・18fps・35mm・無声・白黒・日本語インタータイトル)

'33日本/松竹蒲田(脚)五所平之助(脚)川端康成(脚)伏見晃(脚)小原譲治(脚)金須孝、他田中絹代、大日方傳、小林十九二、新井淳、竹内良一、河村黎吉、若水絹子、高松栄子、兵藤静江、水島亮太郎、武田春郎

●ピアノ伴奏=渡辺雄一[12/18]

●弁士=澤登翠、楽団伴奏=カロード・モノトーン

[12/26]



A-1 12/15火6:30pm 12/24木6:30pm

女神

神女/Shen Nu/The Goddess

夜の女に身を落とし、世間の冷やかな視線と闘いながら、懸命に一児を育てようとする母——“中国のガルボ”とも称される阮玲玉が、薄幸のヒロインを演じた中国映画史上の秀作。「(売春という題材そのものは当時の中国の文学や映画にも登場するが)この映画の娼婦は、理不尽な世界に生きる全ての女性と彼女らのあがきの象徴である。こうした題材に対する他に例を見ないアプローチによって、『女神』は中国と世界の両映画史に多大な貢献をしている」(ポール・クラーク)。稼いだ金を“ひも”から守るための秘密の壁の穴をめぐるサスペンスに満ちた描写は、阮玲玉の熱演とともにこの作品の白眉であろう。

(82分・24fps・35mm・無声・白黒・中国語インタータイトル/日本語字幕付き)

'34中国/聯華影片公司(脚)吳永剛(ウー・ヨンカン)脚)羅明佑(ルオ・ミンユウ)脚)洪偉烈(ホン・ウェイリエ)脚)阮玲玉(ロアン・リンユイ)、黎莉莉(リー・チェン)、章志直(チャン・チーチー)、李君磐(リー・チュンパン)

●胡弓伴奏=曹雪晶[12/15]

●ピアノ伴奏=渡辺雄一[12/24]



A-3 12/17木6:30pm 12/25金6:30pm

ボルシェヴィキの国におけるウエスト氏の異常な冒険

Neobychainye priklucheniya Mistera Vesta v strane bolshevikov/The Extraordinary Adventures of Mr. West in the Land of the Bolsheviks

アメリカ人ウエスト氏が、「ボルシェヴィキの国」を訪れて体験する「異常な冒険」の物語を、同時代のアメリカ映画に似せて演出したレフ・クレシヨフ最初の長篇劇映画で、「最も成功したソヴィエト無声喜劇の一つ」(リチャード・テイラー)と評価されている。「ソヴィエト映画の父」と称されたクレシヨフは、実は、十月革命の時18歳、ブドフキン、バルネットら多くの才能豊かな青年を周りに集め、本作品を監督した時でさえ、20代半ばであった——今日のみで見て内容に陳腐な部分があるうとも、これは国籍と時代を越えた若者の映画である。

(87分・16fps・35mm・無声・白黒・ロシア語インタータイトル/日本語字幕付き)

'24ソ連/ゴスキノ(脚)レフ・クレシヨフ(脚)ニコライ・アセーエフ(脚)アレクサンドル・レヴィツキー(脚)フェヴォロド・ブドフキン(脚)ボルフィリ・ポドーベド、ボリス・バルネット、アレクサンドラ・ホフォーワ、フェヴォロド・ブドフキン、セルゲイ・コマロフ

●ピアノ伴奏=柳下美恵



A-5 12/19土4:00pm 12/23水祝4:00pm

農夫の妻

The Farmer's Wife

妻をなくし新しい伴侶を求めるウェールズの裕福な自作農が、求婚相手の女性たちに繰り返し邪険にされたあげく、身近な家政婦に本当の愛と安らぎを得る——原作は大ヒットした同名の芝居で、1940年には同じ英国でトーキー・リメイクも作られたほどに人気があった。ヒッチコックは、前作「リング」成功の余勢を駆って、サリー州、デヴォン州(共にイングランド)などでロケを行ない、「楽しめる田園喜劇」(L・マルティン)と呼ぶにふさわしいユーモア溢れる作品に仕上げている。上映するのは、英国のナショナル・フィルム&テレビジョン・アーカイヴから入手した最良プリントである。(130分・18fps・35mm・無声・白黒・英語インタータイトル)

'28イギリス/BIP(脚)アルフレッド・ヒッチコック(脚)ジョン・マックスウェル(脚)イーデン・フィルポッツ(脚)ジャック・コックス(脚)ジェームズ・ソントマス、リリアン・ホール・デイヴィス、ゴードン・ハーカー、モード・ギル、ルイズ・バウンズ

●弁士=澤登翠、ピアノ伴奏=柳下美恵[12/19]

●ピアノ伴奏=渡辺雄一[12/23 *この回のみ、日本語字幕付き(スライド式)]



胡弓伴奏者紹介

曹雪晶(ツァオ・シュエジン)
Cao Xue-jing

二胡(胡琴の一つ)の演奏家。上海民族楽団での活躍を経て、来日後、東京芸術大学、東京コンセルヴァトワール尚美で作曲を学び、各地でコンサートを行なう。演劇では野田秀樹作「キル」、市川猿之助のスーパー歌舞伎「カグヤ」等での演奏、テレビではNHK大河ドラマ「秀吉」、TBS「NEWS23」のオープニング(坂本龍一作曲)等の演奏を務める。鬼太鼓座との共演もある。無声映画の伴奏は初の挑戦となる。



ピアノ伴奏者紹介

柳下美恵(やなした・みえ)

無声映画伴奏者。武蔵野音楽大学器楽科(ピアノ専攻)卒業。西武百貨店スタジオ200在籍時より無声映画に傾倒し、伴奏者をめざして研鑽を積む。山形国際ドキュメンタリー映画祭などで行なわれた「光の生誕 リュミエール!」や、国際交流フォーラムでの「ロシア・ソビエト映画祭」でも伴奏を担当。アテネ・フランセ文化センターでこの春より無声映画伴奏シリーズ「サウンド・オブ・サイレント」を始める。



渡辺雄一(わたなべ・ゆういち)

作曲家、ピアニスト。国立音楽大学在学中より作曲、オーケストレーションをピエール・ポルト氏に師事。リリカルで郷愁のあるメロディを絶賛される。現在、オーケストラコンサートや様々な演奏活動の他、楽譜出版にも力を注ぎ、30冊に及ぶ著作をまとめている。無声映画伴奏者としても各種イベントに出演し、今回の「シネマの冒険 闇と音楽」でもオリジナル曲を書き下ろしている。



弁士紹介

澤登翠(さわと・みどり)

故松田春翠の門下。法政大学文学部卒。「弁士」というユニークな存在が忘れられていく時代に、あえてその道を志した戦後派である。定期的に開催される「無声映画鑑賞会」をはじめとする様々な上映会や最近では海外の映画祭などでも活躍している。現代劇、時代劇、洋画と幅広いレパートリーを持ち、また映画評論の執筆や映画出演など、その積極的な活動を通して、「伝統話芸・活弁」を支える貴重な存在となっている。1990年、日本映画ペンクラブ賞受賞。今年弁士生活25周年を迎え、年末に記念のリサイタルを開く予定。



共演楽団紹介

カラード・モトーン(指揮・三味線=湯浅丈一 ピアノ=村岡貞彦 ヴァイオリン=西野ゆか オーボエ=催成龍 パーカッション=足立克己)

無声映画の音楽(生演奏)を担当する西洋楽器と和楽器とを混成した専属合奏団。'87年、東京国際映画祭でD.W.グリフィス監督作品「国民の創生」の音楽製作、演奏を担当し好評を得て以来、日本独特の活動写真の音楽を地道に研究、澤登翠とともに各地で公演活動中。NFCでの共演も4度目となる。

ロベール・ドードラン講演会

第1講「カナダの映画保存とシネマテーク・ケベックワーズ」

第2講「世界のフィルム・アーカイヴ運動：1970年代以降の展開」

Lecture by Robert Daudelin (Curator/Director-General, Cinémathèque Québécoise):

Part 1 — “Film Preservation in Canada and the Cinémathèque Québécoise”

Part 2 — “World Film Archive Movement from the 1970s to the Present”

期日：12月5日(土)午後1時～4時/会場：大ホール

ロベール・ドードラン氏は、シネマテーク・ケベックワーズのキュレーターとして長年にわたりカナダにおける映画保存と上映事業をリードする一方、1989年から95年まで国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)の会長を務めるなど、世界のフィルム・アーカイヴ運動にも中心的な役割を果たしてきました。

フィルム・キュレーターとしての氏の豊かな経験に基づいて、カナダと世界のアーカイヴ/シネマ

テーク運動について考察する今回の講演会は、わが国の公的な映画文化事業の将来にも多くの意義深い示唆を与えてくれることでしょう。みなさまお誘い合わせの上、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

- 開場：午後12時30分
- 入場無料(先着順、定員300名になり次第締切)
- 使用言語：英語/日本語(同時通訳あり)
- 映像素材の上映あり(詳細は当日の配布資料にて発表)

講師からのメッセージ

私はシネマの子供です。外の世界をはじめて見せてくれたのは映画ですし、初恋の相手もアメリカ映画の中の女優でした(それが誰なのかは、どうかお尋ねにならないでください)。寿司が好きで俳句を少々かじり、1962年には北斎の展覧会を見るためアムステルダムを訪れたりしたことがあります。それでもやはり、私が日本について本当に知っていることといえば、すべて溝口、小津、黒澤、今村、その他幾人かの映画作家たちの作品から得たものだという気がしています(ただし、私は多くの偉大な陶芸家たちの作品にも尊敬の念を抱いており、「すべて」とはいつでも、これを「日本の心」に近づけてくれるものとして数えなければ、の話ですが)。

全体として今回の講演は、紛れもなく、私が無知で、何かにつけて実践主義的でしかないという基調に彩られることになるでしょう。

私は1963年創立の頃からシネマテーク・ケベ

ックワーズと共に歩んできました。それゆえ、この自らのアーカイヴの歴史に対する私のアプローチは、時として文化社会学の世界に遊ぶ趣きがあるにせよ、総体としては、組織の内部からの考察といったものになるはずで、すなわち、その使命にしろ成長の軌跡にしろ、そこで実際に働く者の視点として述べられることになるでしょう。

長らく、いわば「もう一つの仕事」であり続けた国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)についても、私はやはりインサイダーとしてしか発言することはできません。FIAFのアーカイヴ運動の歴史と将来に関して、私は確固たる考えをもってはいますが、それもまた内側からのものにすぎません。日本の皆さんにお願いします。ここでも、もし私がまるで見当違いなことを言うようでしたら、どうかそれを遠慮なく指摘してください。

ロベール・ドードラン氏の略歴

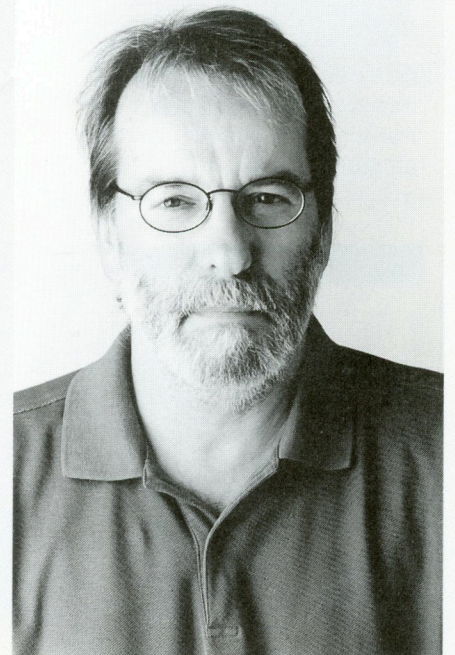
カナダのシネクラブ運動に関わることから映画の仕事をはじめたロベール・ドードラン氏は、1960年に映画誌「オブジェクティブ」を創刊、ここからはジャン＝ピエール・ルフェーヴル、ジャック・ルデュック、ピエール・エペール、ジャック・ベンシモン、アンドレ・テベルジュといった、カナダ映画の新しい作家世代が輩出することになった。

1960年代を通じて、モントリオール国際映画祭のプログラマーとして活躍する一方、新生シネマテーク・ケベックワーズの仕事にも深く関わるようになり、1972年には同シネマテークのキュレーター兼ディレクター・ジェネラルに就任して、現在に至っている。

国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)の活動にも熱心で、1974年から1997年まで同連盟実行委員会委員を務めた。その間、79年から85年までは事務総長、また、89年から95年までは会長の職にあって、世界の映画保存運動をリードした。

なお、1987年から88年にかけては、アメリカのジャズ・サクソフォン奏者リー・コニッツを描く長篇ドキュメンタリー「コニッツ——サキソフォン・アーティストの肖像」"Konitz — Portrait of the Artist as a Saxophonist"を監督した。

1939年生まれ。



日	火	水	木	金	土	
12月	13 14	A-1 6:30pm 女神 <i>The Goddess</i> (82分・24fps・中国語インタータイトル・日本語字幕付き) 胡弓伴奏=曹雪晶	A-2 6:30pm アスファルト <i>Asphalt</i> (117分・18fps・日本語インタータイトルのみ) ピアノ伴奏=渡辺雄一	A-3 6:30pm ボルシェヴィキの国におけるウエスト氏の異常な冒険 <i>The Extraordinary Adventures of Mr. West in the Land of the Bolsheviks</i> (87分・16fps・露語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=柳下美恵	A-4 6:30pm 伊豆の踊子 <i>The Izu Dancer</i> (124分・18fps・日本語インタータイトル) ピアノ伴奏=渡辺雄一	A-5 4:00pm 農夫の妻 <i>The Farmer's Wife</i> (130分・18fps・英語インタータイトル) 弁士=澤登翠 ピアノ伴奏=柳下美恵
	20 21	A-2 6:30pm アスファルト <i>Asphalt</i> (117分・18fps・日本語インタータイトルのみ) ピアノ伴奏=柳下美恵	A-5 4:00pm 農夫の妻 <i>The Farmer's Wife</i> (130分・18fps・英語インタータイトル・日本語スライド字幕付き) ピアノ伴奏=渡辺雄一	A-1 6:30pm 女神 <i>The Goddess</i> (82分・24fps・中国語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=渡辺雄一	A-3 6:30pm ボルシェヴィキの国におけるウエスト氏の異常な冒険 <i>The Extraordinary Adventures of Mr. West in the Land of the Bolsheviks</i> (87分・16fps・露語インタータイトル・日本語字幕付き) ピアノ伴奏=柳下美恵	A-4 4:00pm 伊豆の踊子 <i>The Izu Dancer</i> (124分・18fps・日本語インタータイトル) 弁士=澤登翠 楽団=カロード・モントーン

展示室

ポスターでみる日本映画史 PART II
—みそのコレクションより—

Japanese Film History in Posters, Part II
—From the Collection of Kyohei Misono—
11月3日(火)祝—12月4日(金)/12月15日(火)—12月26日(土)

1995年の京橋新館オープンを機に御園京平氏より寄贈された約3,000点の映画ポスターは、フィルムセンターの最も重要なペーパー・コレクションの一つとなっています。これらのうち、主として戦前までの貴重なポスターを展示しながら、

我が国における映画の始まりとその受容を概観する展覧会「ポスターでみる日本映画史」は、新フィルムセンターにおける最初の映画資料展示として開催され、御園氏が生涯をかけて収集したコレクションの充実した内容を改めて知らしめるとともに、「映画生誕百周年」を祝うにふさわしい企画として好評を博しました。その続篇となる今回は、再び「みそのコレクション」の中から精選したポスター約80点を通して、さまざまなトーカー形式が台頭した1930年代から戦中・占領期を経て、日本映画が国際的な注目を集める戦後の黄金時代までを振り返ります。



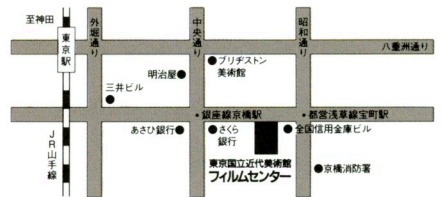
図書室カレンダー

赤は休室日

12月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
 営団地下鉄銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 営団地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車、出口9より徒歩5分
 JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ：NTTハローダイヤル 03-3272-8600
 東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>